

第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教

B. 仮庵の祭りにおけるイエスの宣教

iii. イエスとは誰ですか？十字架につけられた方です！

ヨハネ8章25-30節

25 彼らは尋ねた。「あなたはだれですか。」

「最初から言っていた通りだ」イエスは答えた。26 「わたしはあなたについて、言うべきことがたくさんあります。しかし、わたしを遣わした方は真実な方です。わたしはその方から聞いたことを、世に伝えているのです。」

27 彼らはイエスが父のことを話していたことを理解していませんでした。

28 そこでイエスは言われた、「あなたが人の子が(十字架上で)高く上げられるとき、あなたたちは『私がいる』ということ、また、私が自分からは何事も行わず、父が私に教えてくださったことを語っていることを知るようになる。29私を遣わした方は私と共におられます。私を独り残されたことはありません。私はいつも、その方の喜ばれることを行うからです。」

30 彼が話している間にも、多くの人が彼を信じた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	9月(31月)
イエスの生涯の文脈	第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教
	B. 仮庵の祭りにおけるイエスの宣教
	神殿でのイエスの2番目の教え：「私は世の光である」
タイトル	iii. イエスとは誰ですか？十字架につけられた方です！

コメント：

デイリー・ジーザス・ニュース #153

ヨハネによる福音書第8章で、イエスは二度にわたって重要な質問をされました。「あなたは誰ですか」(8.25)と「あなたは自分を何者だと思っているのですか」(8.53)です。今日の朗読では、この質問が初めて投げかけられ、イエスは明確な答えを与えられました。それは、イエスの正体に関する啓示の光明です。

"あなたは誰ですか?"

この質問に一言で答えるとしたら、あなたはどうか答えますか? あなたを個人として定義するものは何ですか? あなたを他の人と違うものになっているものは何ですか? イエスは、自分を唯一無二の存在にし、自分のアイデンティティの中心となるものを確信していました。それは十字架でした。

この質問を受けたイエスはこう答えました。「**人の子を高く(十字架に)上げる時、わたしがまさにわたしの名を冠する者であることが、あなたたちは分かるでしょう。**」(8.28)この聖句(8.25-29)は、イエスについての深く豊かな洞察に満ちています。ここでは、イエスの答えの一側面だけを指摘します。

イエスは、十字架上での将来の死を「上げられる」と表現しました。イエスが選んだ動詞には、物理的に持ち上げることと、高めることという二重の意味がありました。私がこの翻訳にこの両方の意味を含めたのは、イエスが両方の意味を念頭に置いていたからです。これはヨハネによる福音書でよく使われる言葉遊びです。この福音書全体を通して、イエス自身も著者ヨハネも、十字架上でのイエスの死を描写するためにこの動詞を用いています。

十字架はイエスの時代において、最高の屈辱と恥辱の行為でした。それは最も忌み嫌われ、墮落した犯罪者のためのものでした。ユダヤ人は、十字架は神に永遠に呪われた確かな証だと信じていました。しかし、イエスはそれを「昇栄」とみなしました。それはイエスの栄光であり、神人、世界の救世主としてのイエスの本質と人格に関する啓示の頂点でした。十字架は、イエスの生涯において何よりも、イエスを「わたしはある」、すなわち神として示しました。

イエスとは誰でしょうか? 敵を愛するがゆえに、たとえ彼らがイエスの犠牲を拒み続けたとしても、彼らのために命を捧げることを至上の栄誉と考える神です。イエスは無条件の愛であり、すべての人に公平に示されます。そのような愛を持つのは神だけです。神だけが親切で、思いやりがあり、慈悲深く、忠実で、善良であり、他者を愛するほどに、そして、神に対する屈辱と憎しみを、ご自身の昇栄への最高の機会とみなすほどに。

イエスは無条件の愛を教え、その死によって、二度と並ぶものも再現することのできない方法でそれを実証しました。それは父への愛、罪人への愛、そして自分自身への愛の表現でした。十字架は、イエスの苦しみの中で彼を力づけ、支えた聖霊の愛によって可能になりました。十字架は、父なる神が御子を敵に与えた愛の贈り物でした。イエスの死のすべては、そこに関わったあらゆる関係における神の愛と、同時に神に対する人間のかつサタン的な憎しみを明らかにしました。

イエスの磔刑は、何よりも彼を「私は在る」存在として特定するものです。復活したイエスの体に残る傷跡は、十字架上での彼の崇高さを永遠に記念するものです。

デイリー・ジーザス・ニュース #153

応用：

イエスを信じる者として、私たちは主の十字架について、常に、深く深く思いを巡らす必要があります。深い畏敬の念と礼拝をもって。こうして、私たちは微力ながらも賛美の営みを通して、主の栄光にあずかることができるのです。主は十字架につけられた方なのです！

あなたは今日、どのようにイエスを十字架につけられた神として賛美し、宣言しますか？